総合情報システム運用センターの発足によせて

総合情報システム運用センター長　曽根敏夫

平成 8 年 4 月 1 日より，東北大学のキャンパスネットワークであるTAINSなどの情報システムの運用を担当する部局として，「総合情報システム運用センター」が設置されました。

ご承知のように，本学は昭和 63 年に，全国に先駆けて，本格的なキャンパスネットワークとして，総合情報ネットワークシステムTAINSを構築いたしました。爾来，TAINSは，大学の構成員の多岐にわたる情報処理，通信の基盤として重要な役割を果たしております。さらに，平成 6 年度には，TAINSを増強するため，最先端のネットワーク技術である ATM 方式を採用した超高速ネットワークシステムSuperTAINSを完成させ，平成 7 年度その拡充を果たしました。

SuperTAINSにより，東北大学は，広汎な学問領域で今後の研究を支援する，マルチメディア情報時代に対応できる情報インフラストラクチャを手にすることができました。しかし，キャンパスネットワークシステムは光ファイバやネットワーク機器などのハードウェアを設置しただけでは機能せず，SuperTAINSを真に活用するためには，次の課題を実現することが必要です。

- システムの運用管理
- ネットワークに関する運用・利用技術の研究 / 開発
- ネットワークを応用した情報サービスの提供

平成 7 年度まで，大型計算機センターがTAINSの世話部局として，その運用管理を行ってきましたが，キャンパスネットワークの重要性が増して，上で述べた課題が重要かつ緊急なものになるとともに，全国共同利用施設である大型計算機センターの本来業務と兼ねることのできる限界に近づいてまいりました。これらの背景により，研究，教育のみならず事務用の利用も含めて学内の情報処理を広く支援し，大学全体の情報システムの利用効率の向上を図るために，キャンパスネットワークシステムの運用を目的とする総合情報システム運用センターを設置することになったものです。これに伴い，昭和 36 年度に学内共同利用施設として設置されていた計算センターは廃止されました。

総合情報システム運用センターは，センター長の下，研究開発室と運用係で構成され，先に挙げた課題を主な業務内容としております。また，運営委員会には広報専門委員会と技術専門

委員会が置かれております。広報専門委員会では，SuperTAINSニュースの発行や WWW ホームページの運用などの情報サービスの提供について，また，技術専門委員会ではネットワーク運用・利用技術の研究開発について検討を行っております。さらに，TAINS利用研究会を通して，広範な分野からお集まりいただいた熱意ある専門家によって，日々メ-ルによる活発な提案や実験が行なわれ，それが総合情報システム運用センターの業務を支えるものとなっております。

今後とも，皆様のご支援とご協力を切にお願いいたします。